

# 愛知県議 鈴木まさと新聞

第42号 2020年(令和2年)発行



毎日バイクで皆さんのところを回って、声を集め、それを議会で取り上げ、愛知県の施策に生かしていく。その単純な繰り返しが私の政治活動です。私のホームページに掲載した記事を要約掲載した新聞です。ぜひホームページもご覧ください。社会に多大な影響を及ぼすコロナ蔓延で大変な年になっています。今回の通信ではテレワークで集めたコロナ関係の声も含めて愛知県政についてお伝えします。

- ・コロナの関係で結婚式が中止になり、ケーキ屋さんにも注文が大幅に減りました。
- ・電気屋さんにて、YouTube をテレビで写すためのケーブルを探しましたが、どこも欠品。
- ・一方で、外出自粛の中で、マスクづくりがすっかり楽しくなってきたという声や通っている幼稚園では定期的に先生がムービーを送ってくれました。新入生なのでありがたいという声も。
- ・愛知県として、海外や北海道の事例などを調査して、コロナ第2波、3波襲来にしっかりと備えてほしいと。
- ・公園でスポーツをしている子を多く見るようになった。各種大会がいろいろ中止になり、活躍の機会を与えてあげてほしい。
- ・税理士さん 各種申請や融資の件で、これまでにないくらい忙しい。ある意味、医療従事者と変わらないくらいです。
- ・住宅工事、自粛に入って基礎工事で止まったままです。工事現場があまりそのままのも治安上心配
- ・外出自粛の中で、以前よりインターネットで買い物する機会が増えた
- ・商店街で開く店が増え、街が明るく感じられるようになってきた。
- ・アパートの定期清掃に加えて、屋内の定期清掃を依頼するお店や企業が増えています。コロナをきっかけにして、予防意識高まっているのが原因かもしれない。
- ・高齢者の孤立が心配。接触が減ったことで認知症を発症したりするのではないかと。

## 特別支援学校を充実します

安城特別支援学校(知的障害)の過大解消と岡崎特別支援学校(肢体不自由)への長時間通学の緩和を図るため、愛知県初となる知的障害及び肢体不自由の両方に対応する特別支援学校の開校に向けた建設工事を始めます。

岡崎市本宿町内にある岡崎特別支援学校の美合農業大学校敷地内移転に向けての準備始まります。

2024年4月開校予定



## 愛知県平針運転免許試験場の建替工事について

愛知県警察本部はPFIを導入して名古屋市天白区平針南にある現施設を建て替える「愛知県運転免許試験場整備等事業」の実施方針を公表した。庁舎、付属棟、技能試験コースを全面的に更新し、利用しやすい施設にする。同試験場は、1965年の完成。現在は約10万㎡の敷地に延べ1万8000㎡の庁舎等と四輪、二輪の技能試験コース、駐車場(705台)がある。老朽化が進んでいるため、民間の資金とノウハウを活用して建て替えます。

事業方式は、事業者が設計、建設して所有権を県に移転した後、維持管理を行うBTO方式。業務を継続しながら建て替えを進めます。設計・建設期間は、四輪技能試験コースが18年12月末まで、二輪技能試験コースなどが19年2月末まで、庁舎等が20年1月末までで、同年4月に庁舎を供用します。その後、21年2月末までに立体駐車場などを整備。維持管理期間は20年4月～35年3月の15年間。

実施方針によると、4階建て(地階も可)延べ約1万4500㎡の新庁舎、1850㎡の付属棟、1212㎡の車庫を建設。技能試験コースは面積約4万6600㎡。駐車場は立体化し、平面駐車場と合わせ705台以上を確保する。

建設工事を進めている運転免許試験場について、新庁舎を2020年5月にオープンします。ちなみに平針運転免許試験場リニューアルスケジュールは2018年1月～

- 4輪・2輪技能試験コース
- 2輪発着場・2輪倉庫の整備
- 2018年11月～ 新庁舎・4輪車庫の整備
- 2020年5月 新庁舎の供用開始
- 2020年5月 駐車場の整備など

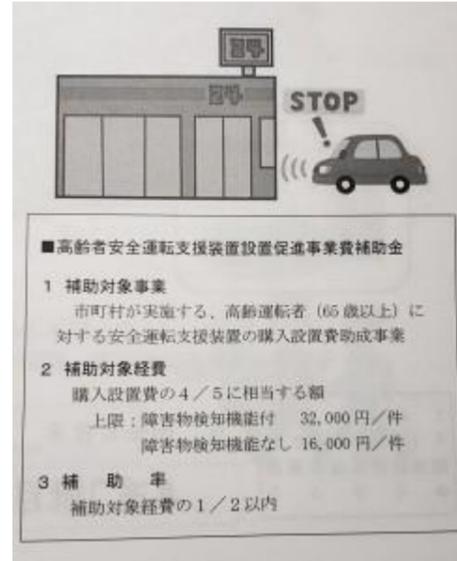


## 高齢運転者の「安全運転支援装置」設置を促進

全国的に高齢運転者による交通事故が多発していることから、愛知県では市町村と協調して、高齢者の安全運転を支援するため、65歳以上の高齢者が現在乗っている自家用車に「後付けの安全運転支援装置(ペダル踏み間違い急発進抑制装置)」を購入設置する場合に、その費用の一部を助成する補助制度を創設します。

県は、申請窓口となる市町村に対して補助します。  
本補助制度と、国の補助制度(サポカー補助金\*1)を併せて活用することで、1割程度の費用負担で装置の設置ができます(装置価格等により負担割合は異なります)。

「サポカー補助金」とは、安全運転サポート車の導入等を促進することで、高齢運転者の安全対策を行うことを目的として、経済産業省による自家用自動車を対象とした「安全運転サポート車普及促進事業費補助金」及び国土交通省による事業用自動車を対象とした「安全運転サポート車普及促進に係る自動車事故対策費補助金」の総称です。



## 美合町にある高等技術専門学校におけるモノづくり人材育成機能の強化促進

愛知県立の職業訓練校です。県立ですので、無料又は低額の授業料で、「モノづくり」の技能と知識を基本から学ぶことができます。女性の方も参加していただいています。初心者の方でも、機械とか、電気とか、経験がないという方でも、ヤル気があれば大丈夫です。機械加工や電気制御を2年で学ぶマルチスキルコース。金属加工の板金や溶接を6か月で学ぶメタルクラフトコース。豊田市の緑化センターで、1年間造園技術を学ぶ造園施工科、造園管理科。知的障害者の職業訓練を行う総合実務科。そして、西三河地域の駅近くの民間の専門学校に、3か月、無料でパソコン、簿記、英会話指導などを学ぶ委託訓練などがあります。

本校舎は、令和2年5月18日から建替え工事のため駐車場の利用ができなくなります。

鉄骨造り2階建て・2棟

建設期間 2020～2024年度

訓練規模 4科130人→整備後には8科290人へ  
新設訓練科(仮称)

2022年4月～ 3Dモデリング科 機械技術科

2025年4月～ ロボットシステム科 ビル施行科



## 自動車のシュレッダーダストとプールに関して議会で質問しました

### シュレッダーダスト処理に関して

ある自動車解体業者を訪ねた際、「シュレッダーダストは遠く九州や関東地方にまで運んで処理しているから運搬費が高騰して困っているんだよ」という声でした。ここでシュレッダーダストとは、使用済み自動車や電化製品を破砕し、金属類などを回収した後に残るゴムやプラスチックのことで、自動車の場合ですと、解体する際、使える部品は取り除き、最後に残った車の中のイスやダッシュボードなどを破砕したプラスチックや金属類が該当します。それは原材料に戻したり、燃料として燃やしての再利用や外国に輸出などしています。しかし外国に輸出されていた雑品スクラップがバーゼル法の影響で輸出できなくなり、国内で処理する必要があるが出てきたというのが昨今の情勢です。

2019/8/19の日刊自動車新聞の記事によると、破砕業者の団体である日本鉄リサイクル工業会では、「シュレッダーダストの処理場が国内に少ないのが問題だ。日本から中国に輸出されていた雑品スクラップは年間150万から200万トン。こうした量を国内処理するには、焼却施設をはじめ既存施設の数では明らかな能力不足が生じている」と。それに対して愛知県環境局は、排出事業者における排出量削減やリサイクルの徹底、業界団体との連携による産業廃棄物処理業者における適正処理の確保に加え、廃プラスチック処理施設整備への助成枠を別途措置し、事業者の積極的な取組を支援していきますとの議会答弁がありました。

### 学校プールの更新時期に合わせて

これはある高校に行った際に、ずっと使われていないプールをみたのがきっかけでした。愛知県では、昭和40年代から50年代にかけての人口急増時に建設された施設が多く、築30年以上の校舎・体育館・プール等で老朽化が進んでおり、維持管理費もかさんでいます。

ここで、プールを一つずつの学校に一つずつ作る必要があるのでしょうか。地域によっては学校の近くに民間のスポーツクラブがあればそこを活用することも考えられますし、あるいは2校、3校一緒に更新をしなければというときには、ある1カ所に屋内プールをつくって、そこを1年間利用できるようなカリキュラムを組んでいくということもできると思います。屋外プールでの授業は冒頭で述べたように天候とか気温の制約を受けることから不安定です。年間を通じて利用できる屋内プールを複数の学校が共用して、夏場の使用だけではなく年間を通して活用するという方法もあります。老朽化したプールを一つずつ更新するという考え方から、今ある民間のプール施設を有効活用したり、拠点となる学校プールを全天候型にしたり、全天候型の公営プール施設を活用したりと今ある社会資源を有効活用することで学校のプール事業を更新時期に合わせて再編してはどうかと考えています。

「鈴木まさと」で検索できるホームページ ぜひご覧ください。

ご意見・ご要望は、鈴木まさと事務所まで

岡崎市滝町河原ケ13-3

ファックス 0564-46-2685 メール [masatosuzuki@m3.catvmics.ne.jp](mailto:masatosuzuki@m3.catvmics.ne.jp)